



# センター通信

〒 123-0873 東京都足立区扇 1-12-20  
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880  
URL www.wfc.or.jp

## 復興支援 センターができること

長年、親や家族から離れた少年少女と起居をともにしている我々にとって、今度の「東日本大震災」は、大変ところが痛む出来事でした。まだ、避難所暮らしをしている、どれだけ沢山の子どもたちが、先行きに不安を抱いていることでしょう。

この子どもたちが、私たちと関わることになるかどうかはまだ分かりませんが、そんな時が来たら、もちろん全力を挙げて支援したいと思っています。「施設」はそれぞれに、児童憲章や児童福祉法に掲げて、家庭に変わる「よい環境」を目指しています。「親に代わること」はできなくとも、精一杯、愛の火を燃やし、独りひとりの震災孤児の幸福な将来に献身するでしょう。

彼ら、彼女らの前途は、けっして平坦なものではないかもしれません。しかし、私たちの施設には、「運命なんかには負けないぞ」と、毎日がんばっている沢山の兄弟・姉妹たちもおります。

震災直後から、センターの職員たちも、募金、献金など、被災者支援の活動に参加しています。また、法人としても、例年のバザーのため用意していた手持ちの新品衣料、食料品等を、いち早く救援物資として送りました。我々ができる、ささやかな支援を、ここ一つにして続けております。

法人理事会は、老朽化して危険な「自立援助ホーム新宿寮」の建替え工事を、本年度着工することに



宮城県石巻市渡波小学校グラウンドで遊ぶ子どもたち

なっておりますが、復興のための建設資材調達や大型建設機械等の需要の妨げにならないよう、都や工事関係者と協議し、着工を2年間程度延期いたしました。

センターは、創立以来、沢山の人々の優しい支援で、ここまで大きく成長し、今もまた成長を続けております。今回、各階層上げての被災地支援活動をこころ温かく見守りながら、「やはり日本人はすばらしいなあ」と思ったのは私だけでしょうか。何気ないそして、真摯な、また犠牲的な全国民的支援、この「家族的結束」の気持ちがある限り、やはり日本は世界一です。

センターの職員や児童も、被災地でのボランティア活動をしたいとの申し出も聞いております。もしそれが実現できれば、すばらしいことだと思います。

これから暑い暑い夏です。センターのいくつもの施設・ホームを挙げての節電にも、がんばって取り組みたいと存じます。

専務理事 長谷場夏雄

## 新宿寮 移転・新築計画延期

東日本大地震で被災された方々にお見舞い申し上げます。

今年7月に新宿寮の移転新築工事の着工を計画しておりましたが、震災の影響で、工事を2年間程度延期をさせて頂く事となりましたので、お知らせいたします。理由は下記のとおりです。この建設資金のために、多方面からのご寄付をいただきました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。ご寄付いただきました資金は、工事着工の折まで新宿寮建替積立として

預金させて頂きたく存じます。正確な工事再着工時期は、復興の進行度合いによることとなります。時期が決定いたしましたら、皆様にお知らせし、再度ご支援をいただければ幸いと存じます。

### 当初の建築計画概要

工事名称 新宿寮移転新築工事

工事場所 東京都足立区扇 1-12-20 (法人所有の敷地の一部)

用途定員 自立援助ホーム 15 人定員  
構造規模 RC 造 地上 3 階建  
工期 平成 23 年 6 月上旬～平成 24 年 3 月下旬

### 工事延期の理由

- ・建設資材や重機・職人を東北被災地に優先的に使用していただきたい。延期期間中は最低限の耐震補強工事を実施し、寮生の安全に配慮します。
- ・大震災による電力不足で、東京電力より新規工事に対するの供給を緊急以外は中止したいとの旨の情報がりました。実際に計画停電の折には建設予定地においては日に 2 回の停電が行われました。
- ・大震災後に想定される建設材料、人手の不足が実際におきていて、工期が不透明となっています。
- ・建設業界が非常に不安定である現況下において、適切な入札が困難な可能性があります。
- ・建設資材が値上がりしていて、工事価格に比して計画している内容が質の低下を招く可能性があります。

建設に伴い、敷地内にありました桜の木 5 本を影響のない場所へ植え替えました。職員や関係者は、着々と工事の段取りとしていた矢先の延期決定に、若干の戸惑いはありました。しかし、理由が震災の復興であること、これには誰 1 人として反対はありません。被災者の方々におかれましては、一刻も早く通常の生活に戻られることを願ってやみません。



画面右が植え替えた桜、左建物が暁星学園

## 入所児童の作文紹介 震災について

### 「衝撃のはしった日本」

高校 2 年生 一輝

3 月 11 日この日をさかいに、日本中に大きな衝撃が起きた。

宮城県沖を中心とした東北のみならず、関東・甲信越にも被害が及ぶ東日本大震災が起こった。街中に大きな悲鳴とともに、地割れが起き、津波で大きな被害が出た太平洋沖に街中にどん底にたたされたような光景しか、そこにはないような感じであった。

死者・行方不明者は津波・建物崩壊により凡そ 1 万 7 千人と言われている。

福島の原子力発電所に影響がさらに拡大し全ての原子力発電所が壊れてしまった。原発を中心とし近郊にもその被害として福島のある周辺は危険区域になってしまった。

その頃、東京の街も散々な結果になり、多くの旅客鉄道が停止し、帰れない人が沢山街中に溢れていた。その頃、自分も学校で帰るという指示が出た。多くの駅では振替輸送という形が取られていた。この当時街中は「早く家に帰りたい」といった人で溢れていたのだ。

バスも大きくいえば 1 時間待ちが当たり前の現状

だった。自分も早く帰りたい一心でバスを待った。帰れたのは八時頃だった。

まだ震災を抜け出せずにいる人が沢山いるし、震災を受け東京・埼玉など色々な所に引っ越し人が多く見られた。まだ地震の傷跡も残っていたり、地震がこれから起こるかもしれないが、懸命に生き延びられるように、応援し続けたいと思う。

### 「震災で感じたこと」

19 歳 千春

今回、私は初めて地震の恐ろしさを知った。

2011 年 3 月 11 日、いままで感じていた地震とは異なり、大きな被害が全国各地におそいかかった。特に被害を受けたのは東北でした。私はとても悲しくなりました。沢山の人がこの地震で亡くなるし、テレビで放射能は漏れたというし、生まれて初めて計画停電は行われるし、エスカレーターやエレベーターは止まるし、今まで出来ていたことが出来なくなるし、生きていることがとても大切なことなのだと感じました。

今まで、生きることなんてどうでもいい、たまには死にたいとも思いました。けれど、今回の地震でわかったことは、生きていることがどれだけ幸せ

か・・・。

よく考えれば、私には良い所や得意なことはある。すべてが悪い訳ではない。そう、悪い事ばかり考えずにもし悪い所があるなら悪い所を無くして、良い所に変えること。すぐには無理でもいつか絶対に出来る、プラスに考える、自分にも良い所があるんだよということを行い聞かすこと。それを実感させられました。

地震はつらい嫌だけど、楽しんで生きてはいけなし、生きていることが幸せだということを知りました。これからつらいことはあるだろうけど、自然に死ぬまでは頑張って生きていこうと思いました。

## 近・況・報・告

### 自立援助ホーム 新宿寮のようす

(定員男子 15 名)

新宿寮では、寮生と職員の間で将棋が流行っています。ある寮生は、もっと強くなりたい、という思いから、図書館で将棋の本を読んでいます。なにごとも、負けず嫌いなことは良いものです。



昨年 4 月に入寮した A 君は、5 月無事にアパートへ退寮しました。彼は、訪問介護の事業所で、事務もこなしながら、ヘルパー 2 級の資格を取得しました。実際、介護の業務にも出向いています。これからは介護食士(要介護者に適した食事の調理技術を持つ専門職)を目指して、勉強する予定とのことです。

寮生に、東日本大震災の義援金を呼びかけたところ、数千円が集まりました。必死になって働いたお金から、寄附してくれたのです。なんと温かい心をもった児童たちなのでしょう。きっと現地の被災者にこの思いが伝わるはずです。

妙少寺川沿いの花壇に植えたひまわりが、すくすくと大きく育っています。夏には大きな花を咲かせることでしょう。寮生がこのひまわりならば、職員は水であり、日光なのです。その成長を、これからも温かく見守っていきたいと思います。

東日本大震災の影響で、移転新築工事が延期になりました。関係者の皆様には、大変ご迷惑をお掛けいたしております。再工事が決定しました折には、どうか再度ご支援くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

### 自立援助ホーム 清周寮のようす

(定員女子 15 名)

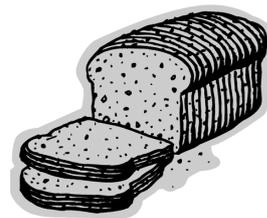
今年 4 月より、寮長が大屋桂子から、黒川円に変更となりました。黒川寮長は、児童養護施設 曉星学園に児童指導員として長く勤務しておりました。事業所長となるのは初めてで、不慣れな部分もあるとは思いますが、どうぞよろしくお願い致します。旧寮長である大屋桂子は、おうぎ寮寮長となりました。重ねてよろしくお願い致します。

清周寮では、退職した職員の交代を含めて、3 人の女性が新たに採用され、勤務に就いています。フレッシュな職員が多いなか、チームワーク強化を含めて、職員研修に力を入れていく思いです。

寮生の中には、飲食店に勤めている子たちがいます。その一人は、たこ焼き屋さんで、毎日何百個ものたこ焼きを一生懸命に作っています。だれかが頑張りを見てくれていたのでしょうか。お店の中心人物となり、まわりの同僚から信頼される存在となっています。

寮では最近、職員と寮生が一緒になって、ホーム

ベーカリーでパウンドケーキやパンを手づくりしています。一緒に作って一緒に食べる、まさに家族的な雰囲気近づいています。共に生きている喜びを毎日感じています。



### 自立援助ホーム おうぎ寮のようす

(定員 6 名)

おうぎ寮は、4 月より寮長が変更になりました。大屋桂子が新寮長です。3 月までは清周寮の寮長をしており、長谷場の後を引き継ぎました。おうぎ寮の伝統を大切にしながら、更なる努力をしていきます。長谷場は、法人の専務理事という立場は変わらず、全事業所の相談役という立場で、いつでも誰でもが気軽に相談に来られる様にと本部の向かいの部屋にあります。

入所児童は、現在男子 2 名と女子 3 名の 5 名です。定員は男女合わせて 6 名です。5 月に女子 1 名がアパートへ退所したので、1 部屋空きがあります。生活ですが、職業訓練校(ハローワーク基金訓練)に通っている女子が 3 名います。彼女らは、ウエディングプランナー・保育士・医療事務とさまざまな業界

に就職すべく、毎日訓練を受けています。

そのうちの1人は、5月末に自立のための生活訓練をするため、別の建物へ引越しをします。その建物は、同じ敷地内にあり、自立訓練棟と呼ばれています。自立するまでの間の3ヶ月間をそこで1人で生活します。料理はもちろん、掃除洗濯等の訓練もします。そうして、アパートに出る様々な準備を、心の



整理も含めてするのは、職員にとって、一緒に過ごした入所児童が退寮する時は、とても寂しいものです。本当は、心の整理ができていないのは職員の方なのかもしれません。

### 共同生活援助 ノエルのようす

(定員5名)

東日本大震災の当日、信じられないことに数軒おいた先で火災が発生し、全焼しました。消防署に連絡をし、職員は急いでガスと電気を遮断して、駐車していた車を遠方に動かしました。当然の事ながら、鎮火するまでは近寄ることも出来ませんでした。類焼は免れました。利用者は、大きな地震に加えて火事まで起きて、不安は大きく、普段は日勤の職員もその後は数日、泊まりこみました。その後の計画停電中も、電気が灯るまでは利用者と共に過ごし、楽しくおしゃべりをしたりして、不安を取り除くのに努めました。夕食の準備にかかる頃の停電は、早めに調理をし、蝋燭の灯の基での夕食と言うこともありました。利用者・職員双方にとって貴重な経験でした。

4月に入って、清周寮から1人、新しい仲間が入りました。本来、就労をしていることが前提ですが、彼女は職業訓練校に通いながら、就職に繋がるようにと準備しています。ノエルという新しい止まり木で自活への道を探り、生活がよりよいものになるように助けていきたいと思っています。



### 児童養護施設 暁星学園のようす

(定員36名)

暁星学園では、昨年暮れに結婚に伴い退職した職員が数名おり、その交代を含め、新入職員6名を指導員として採用しました。また、心理職員も2名採用しています。新たな職員とともに、より強固な組織をつくるべく、努力をしています。

昨年度退所した児童の中には将来商品開発の仕事に携わりたいという夢を持ち、毎日勉強に励み、晴れて大学に進学した児童がいます。入所児童では、工業高校に通いながら、将来大工になる夢を抱いている立派な若者もいます。また、高校3年生の男子は、大学で建築工学の勉強をしたいと、毎夜受験勉強をしています。高校1年生の女子は、小さい頃からの夢であった看護師を目指して、卒業後に看護専門学校に入る目標を持っています。職員は、それぞれが持っている夢や目標を一生懸命に応援しています。それは退所してからも一緒です。いつでも気軽に相談に来られる体勢を整えています。



今後は夏に向けてキャンプに行く計画を立てています。どこへ行くのか、どのような食事にするか、児童が主体となり意見を出し合い、職員と一緒に考えます。きっと素敵なキャンプになるでしょう。今から楽しみです。

### 児童養護施設 あけの星学園のようす

(定員20名)

今年も裏山からたくさんの竹の子が顔を出しました。子どもたちと炊き込みご飯や煮物などでおいしくいただいています。都内の新宿という土地にいなから、取れたての竹の子を味わえる幸せを感じている日々です。

あけの星学園では、大学新卒の男性2名を新たに職員として採用しました。また新宿寮から女性1名が転属して、合計3名の新入職員とともに新年度を迎えています。

児童養護施設は「保護者のない児童、虐待されている児童、その他養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施

設」です。(児童福祉法第41条)上記のような児童を対象としているため、より専門的な職員を育成する必要があります。あけの星学園では、今年度より、毎月1回の園内研修を実施し、資質向上に取り組んでいます。



入所児童では、朝7時からファーストフード店でアルバイトをして、午後は定時制高校に通っている頑張り屋さんがあります。また、高校3年生で声優を目指して、専門学校入学を希望する児童もいます。まだ、夢がない児童もいます。高校生で将来を考えるのは難しいかも知れません。しかし、今やることを一生懸命にする、ここから夢ができるかも知れません。職員は、いつでも相談にのれるよう、そばにいます。

## 成人式開催

1月8日(土)、日暮里のホテルラングウッドにて、青少年福祉センターを卒業した新成人が集まり、法人による3回目の合同成人式を開催しました。今回は、37人が成人を迎え、参加者は仕事の都合もあり、20人の出席となりました。在寮中にお世話になった方々をお招きしての成人式は、とても感慨深く、また、新たな船出を職員・関係者の皆様でお祝いできたことをうれしく思います。

この会に多くの企業・団体の方々が今回もご協賛くださいました。新成人は、皆様にお祝いしていただいたこと、その心温かい気持ちを胸に持ちながら、新たな大きな一歩を踏み出すでしょう。ご支援いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。



## 職員紹介

昨年度から、法人に対して、特別に貢献した職員に、感謝状を授与することを決定いたしました。また、永年勤続の表彰式も合わせて行うこととなりました。今年、感謝状の対象者は2名で、永年勤続の対象者は、初めてのこともあり、20人でした。



暁星学園	権藤 聖一	勤続 29年
	角田 千恵子	勤続 13年
	川崎 純	勤続 10年
	八子 浩	勤続 9年
	斉藤 美智子	勤続 7年
	香野 茂一	勤続 6年
	堀 宣子 (非常勤)	勤続 15年
	伊藤 正子 (非常勤)	勤続 12年
	瀬田 道子 (非常勤)	勤続 10年
あけの星学園	木藤 明美 (非常勤)	勤続 5年
	石丸 正史	勤続 15年
	野館 一郎	勤続 7年
新宿寮	稲葉 繭子	勤続 7年
	松本 耕造	勤続 10年
清周寮	黒川 円	勤続 7年
おうぎ寮	大屋 桂子	勤続 18年
本部	坂井 孝行	勤続 8年
感謝状受領者	屋嶋 洋平 (清周寮)	
	佐藤 敦文 (清周寮)	

## 平成 22 年度 決算書 (資金収支計算書一部抜粋)

(単位：円)

	勘定科目	本部	暁星学園	あけの星学園	清周寮	おうぎ寮	新宿寮	ノエル
経常収入	行政からの収入	0	228,434,586	135,168,358	40,945,906	26,625,592	40,364,338	6,619,400
	利用料収入	0	0	0	3,499,000	1,775,000	3,912,000	1,624,373
	寄付金	8,722,846	620,200	280,000	775,000	647,600	15,675,837	1,315,000
	雑収入(受取利息含む)	8,521,708	3,238,083	2,365,391	2,896,154	626,642	1,479,914	52,103
	繰入金収入	13,500,000	3,683,476	0	0	0	7,500,000	602,000
	収入計	30,744,554	235,976,345	137,813,749	48,116,060	29,674,834	68,932,089	10,212,876
経常支出	人件費支出	10,243,025	137,527,980	89,673,251	37,526,042	19,484,150	31,235,220	7,374,997
	事務費支出	10,282,003	21,265,458	14,754,938	3,429,587	1,971,033	3,407,220	2,237,062
	事業費支出		45,355,040	22,065,418	4,849,713	2,963,581	6,024,615	1,258,218
	借入金利息支出		1,647,100				380,000	
	繰入金支出	11,785,476	12,000,000	1,500,000	0	0	0	0
	支出計	32,310,504	217,795,578	127,993,607	45,805,342	24,418,764	41,047,055	10,870,277

昨年度は、聖心バザーの開催年で、本部の寄附金と雑収入に計上されています。本部の寄附金額が昨年より減少しておりますのは、新宿寮の建て替え資金として、新宿寮に入金しております。幸いなことに東京都社会福祉協議会を通じて、各事業所に500万円の補助金を頂き、行政からの収入に加えております。その結果、昨年度は本部から自立援助ホームへの運営資金の繰入をしないで済みました。多くの皆様のお蔭で昨年度も無事に終えることができ、感謝申し上げます。

### 東日本大震災にあたって

「アフターケアセンター」として約50年前にスタートしたセンターは、施設退所後のケアの必要性をいち早く認識して、研究・実践することで、アフターケアの先駆者となりました。その活動が、長い時を経て、自立援助ホームという施設となり、インケア(施設内ケア)となりました。しかし、周知のとおり、この現代においても、アフターケアの必要性は変わらずもあるのです。

東日本大震災は、一人で孤独に暮らすセンター卒業生たちにも、その影響を及ぼしました。

大きな揺れと停電そして原発、先行きの見えない不安が、彼らの心を一気に覆ったのです。家族的な支えが少ない卒業生にとって、それは著しく大きなストレスとなって襲いかかりました。ある卒業生は、残念ながら、その不安から来る睡眠障害で職を失いました。そこには震災の影響がありました。

震災後、家族間のコミュニケーションが増えた家庭は、全体の3割以上となっており、家族の絆を大事にする傾向があるようです(ネットリサーチ)。家族の絆が極めて弱い卒業生にとって、センターがその絆の担い手となりそれを大切にしています。

今後も、職員一丸となり、卒業生の安定した生活の支えとなるよう、アフターケアを充実させていきます。どうぞよろしく願いいたします。

当法人では幸いにも利用者は勿論、職員にも被害が及ばずに済みました。

職員よりの義援金を全国自立援助ホーム連絡協議会、全国児童養護施設協議会に、送金致しました。

多くの後援者から頂いている品物を、ボランティアの方達が購入し、被災者のニーズに合わせて品物を選んで下記宛に届けたり、送付しております。今後も被災された方達の気持ちにより添い物資を送る支援を続けて参ります。

-支援先-

東京武道館(足立区綾瀬)  
相馬市社会福祉協議会(足立社会福祉協議会経由)  
鴨川青年の家(阿武隈更生園の避難先)  
岩手、宮城、福島県のボランティア団体

#### 編集後記



今年の夏は、15%の節電を求められています。施設では照明を電球型蛍光灯に変更したり、一部の照明を外したりしました。どうか皆様もお体に無理のない範囲で、ご協力をお願い申し上げます。また、本部事務員に飯嶋絵里奈が加わりました。どうぞよろしく願いいたします。

(本部 坂井)